

算命学中庸

【初年】 50 回目

50 回目の授業はこのページからです。

授業科目 【人体図の観方】 ②

【初年】 50 回目【人体図の観方②】 01

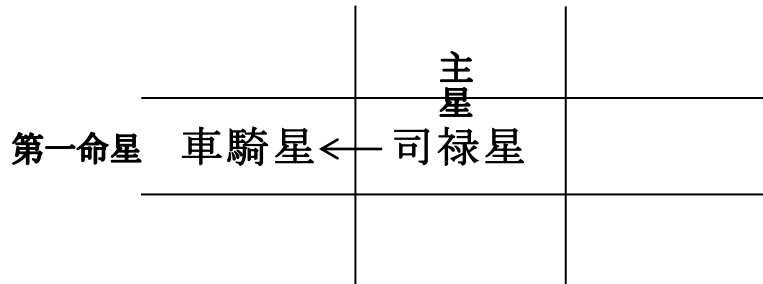
□ 人体図の観方 ② (じんたいずのみかた)

宿命 (1) A 子 【人体図の観方①】 02 頁とおなじです。

	龍高星	天堂星
車騎星	司禄星	禄存星
天馳星	調舒星	天南星

⇒ 人体図の観方の続きに入ります。

宿命（2）A子 自分と配偶者の関係です。



主星は〔司禄星〕で、配偶者の場所・第一命星には〔車騎星〕があります。

本人の場所・主星〔司禄星〕の五行は土性です。

夫の場所・第一命星〔車騎星〕の五行は金性です。

この人体図は（土→金）と相生になっていますから、A子さんは〔夫を助けるとか、夫の面倒を看てあげたい〕そういう気持ちをもつのは当たり前の人ですが、『相生』して助けるのが良いとは限りません。

相手の何から何まで面倒を看て、助け過ぎれば過保護になりますし、束縛することにも繋がりけど……

〔相手に助けられるのを嬉しいと思うのか〕あるいは

〔嫌だと思うのか〕それは相手の人体図次第なわけ
です。そして『相剋』の場合はどういう意味なのか……
『比和』ならどうなのかと……前回、遣やりました。

☞ ここで……考えて頂きたいのです。

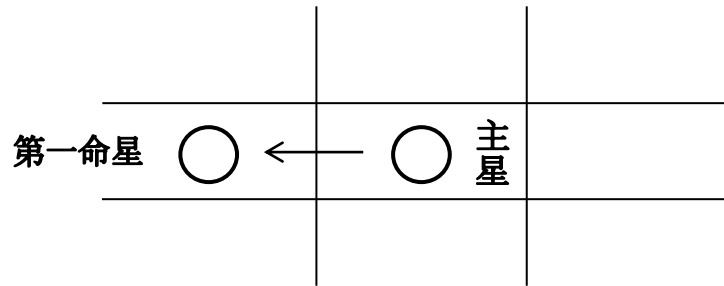
〔主星〕と〔配偶者の場所〕の『相生』『相剋』『比和』
の関係を、①番から⑤番まで書きました。

『相生』と『相剋』には、矢印の向きが二つあります
から、全部で5種類のパターンができるのです。

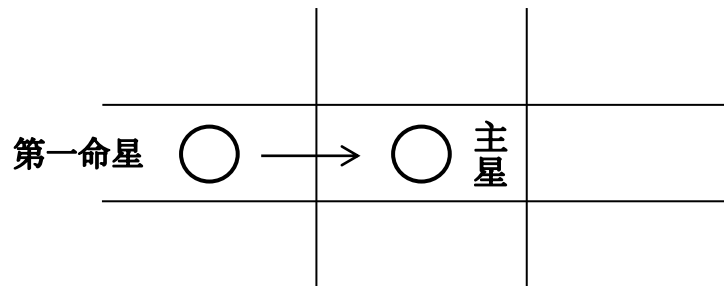
- ① 主星が配偶者を生じいく
- ② 配偶者が主星を生じてくる
- ③ 主星が配偶者を剋す
- ④ 配偶者が主星を剋す
- ⑤ 主星と配偶者が比和

つぎの頁で、①～⑤の パターン 型 をご説明していきます。

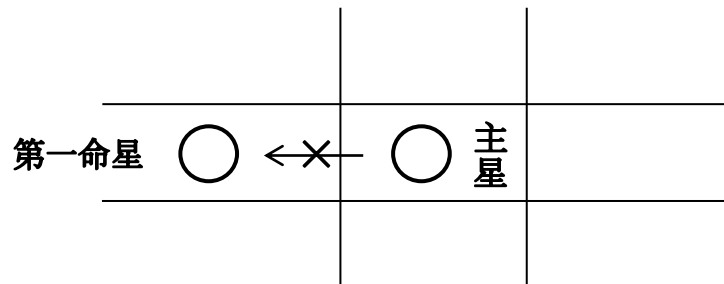
① 主星が配偶者を生じいく



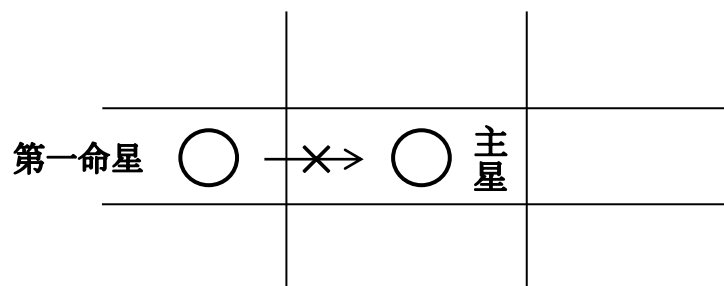
② 配偶者が主星を生じてくる



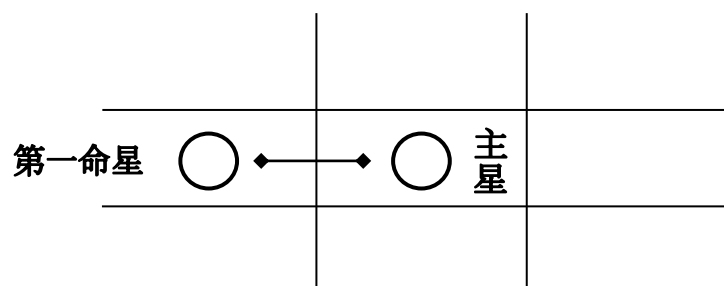
③ 主星が配偶者を剋す



④ 配偶者が主星を剋す



⑤ 主星と配偶者が比和



①～⑤番までの型を書きましたが、A子さんにとって、この部分(自分と配偶者)の相性が最も良いのは②番です。

① 主星が配偶者を生じいく

①型は、主星をAさんと仮定しますと、Aさんの〔司禄星〕が(土→金)と、夫の〔車騎星〕を生じている人体図です。この型の人体図は〔夫を助ける、夫の面倒を見て当たり前〕あるいは、夫を助けてことで、夫が喜んでくれると、この宿命は満足です。

つまりAさんが満足します。

A子さん

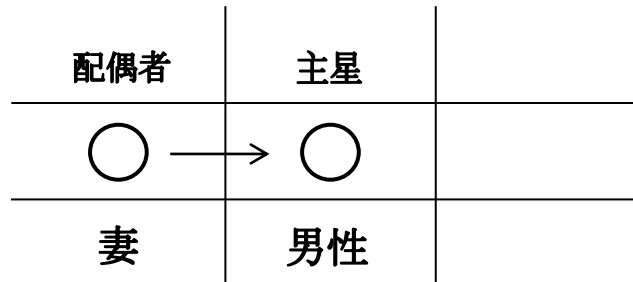
配偶者	主星	夫を助けて当たり前と思う女性
車騎星 ←	司禄星	夫を助けてあげたい 夫を束縛したい

『相生』の部分だけを見れば、(土→金)と〔夫を助けてあげたい〕〔それが当たり前〕と書いてある人体図なわけです。

そうしますと、Aさんが喜ぶ男性は②型のはずです。

A子さん自身が喜ぶ相手の男性は②型です。

② 配偶者が主星を生じてくる



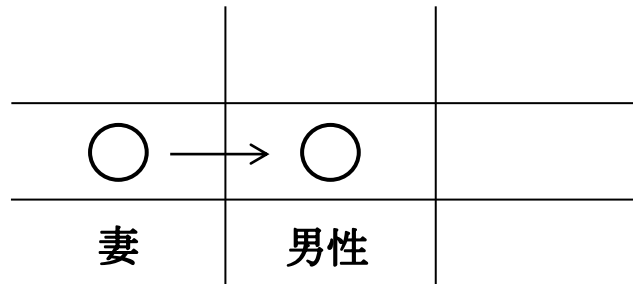
②型の男性は、妻の場所から生じられています。

この男性は「妻から助けってもらって当たり前」と思う男性です。妻から助けってもらって当たり前と思う人

そうしますと、妻のほうは「夫を助けて当たり前」と思っていて、夫のほうも「妻に助けってもらって当たり前」と思う男性が夫なら、この2人の夫婦関係には、何の障害にもならないわけです。

②型の男性は「妻に助けってもらって当たり前」と思う人です。この言い方は“凶々しい男性”のように聞こえますが、表現を変えれば「僕は妻から助けてもらいたいのです」そういう人なのです。

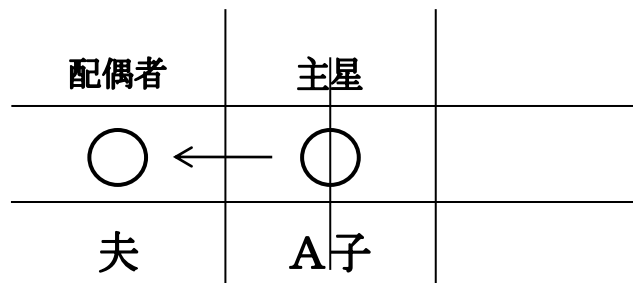
② 配偶者が主星を生じてくる



②型の「妻から助けってもらって当たり前」と思う人は、
「妻に助けてもらいたい」と思う人です。

A子さんは「夫を助けてあげたい」と思う女性です。

①型は、主星が配偶者を生じいく



夫を助けてあげたい（夫を束縛したい）

重複しますが「私が助けてあげるわ」……聞こえはいいのですが、（土→金）（土→金）と、妻が絶えず夫を助けて面倒を看ていたら、結果的に相手を束縛することにつながります。言い換えれば、A子さんは「夫を束縛したい」という女性なわけです。

『相生』のなかには、このような意味合いも含まれるわけです。

一方が「相手を束縛したい」と、思う人だとすれば、一方は「相手に束縛されたい」と、思っている人であればここはピッタリ合います。

それゆえに、A子さんにとっては、⑤型のなかで……一番相性の良い人物は②型になります。

そうしますと、私は「夫婦の関係は相剋がいいわ」という人だとか、

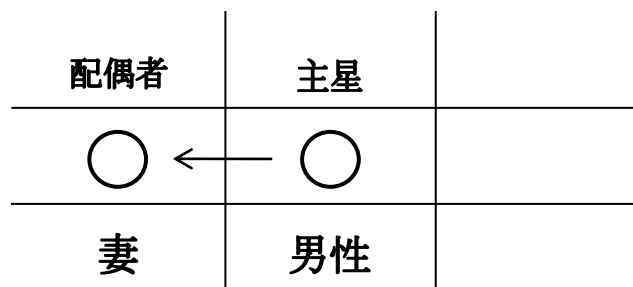
「僕は、比和の友達みたいな夫婦がいい」という人にとっては、Aさんのように「一生懸命に夫の面倒を見て、夫を束縛しようとするような女性が配偶者だと」③型 ④型 ⑤型の男性は、すごく“わずらわしく”なります。助けてくれなくていい、放っというて欲しい、そう思うようになるわけです。

そのような意味で、A子さんにとって最も相性の良い相手は②型の男性になるはずです。

☞ そして、②型の男性のつぎに、A子さんと相性が良いのは、どの型なのかと考えますと、それは①型です。

②型のつぎに、彼女と相性が良いのは、①型の男性です。

①型は、主星が配偶者を生じいく



夫を助けてあげたい（夫を束縛したい）という型です。

A子さんは「自分のほうから夫を助けてあげたい」という女性ですから、最も相性が良いのは②型の男性でした。

①型の男性は「僕が妻を助けてあげたい」のです。

つまり、お互いに相手を助けてあげたい同士です。

矢印の向きを見ると、一致していないようにおもえますが、

②型「妻は夫を助けてあげたい」
 ①型「夫を妻を助けてあげたい」 } このようになっています

この姿はお互いにおなじ『相生』です。それゆえに、「相手の気持ちを理解しやすい」といえるのです。

A子さんには、②型が最も良いのですが、そのつぎには①型が良いと、この部分の相性は考えてください。
③型 ④型 ⑤型とは相性が悪いです。

③ ④ ⑤の順番で悪いという意味ではないですよ。

主星と配偶者の関係がいずれも合っていません。

Aさんは、③型 ④型 ⑤型との相性は悪い

☞ これらの関係については、つぎのように考えておくと良いですね。

本人の主星と配偶者の星が『相生』の場合は、相手も『相生』になっているほうが良いのです。

本人の〔主星の星〕と〔配偶者の星〕が『相生』の場合は、相手も〔主星の星〕と〔配偶者の星〕が『相生』になっているほうが良いのです。

本人の主星と配偶者の星が『相剋』の場合は、相手も『相剋』になっているほうが相性は良いのです。

本人の〔主星の星〕と〔配偶者の星〕が『相剋』の場合は、相手も〔主星の星〕と〔配偶者の星〕が『相剋』になっているほうが良いのです。

本人の主星と配偶者の星が『比和』の場合は、相手も『比和』になっているほうが良いです。

本人の〔主星の星〕と〔配偶者の星〕が『比和』の場合は、相手も〔主星の星〕と〔配偶者の星〕が『比和』になっているほうが良いのです。

上記のように考えてください。

☞ 以前にも——^{あいしょう}相性の観方は出てきました。

「それと」「これは」別の話なのです。

もちろん、前にやった相性の観方も、見なくてははいけませんし、ここでの観方も見なくてははいけないのです。両方を見ないとはいけないわけです。

そこで——。

前に遣った^や〔例〕を、少しつかいまして、占いの練習をしましょう。➡

* 浩宮・皇太子 1960(s35)-2-23

	石門星 ^木	天貴星
牽牛星 ^金	司祿星 ^土	鳳閣星 ^火
天極星	玉堂星 ^水	天報星

* 雅子妃殿下 1963(s38)-12-9

	牽牛星 ^金	天恍星
司祿星 ^土	牽牛星 ^金	玉堂星 ^水
天庫星	龍高星 ^水	天報星

* 秋篠宮 1965(s40)-11-30

	牽牛星 ^金	天祿星
司祿星 ^土	祿存星 ^土	龍高星 ^水
天報星	玉堂星 ^水	天馳星

* 紀子様 1966(s41)-9-11

	司祿星 ^土	天馳星
龍高星 ^水	龍高星 ^水	車騎星 ^金
天胡星	祿存星 ^土	天胡星

🔍 12頁に書かれている人体図を参考にして、話しを進めます。五行を付記してあります。

👁️ 浩宮皇太子(令和天皇)ご夫妻の相性からはじめます。

宿命(1) 皇太子様		
配偶者	主星	
牽牛星 ←	司禄星	妻を助けて当たり前と思う男性 妻を助けてあげたい

皇太子様の妻の場所は「牽牛星」になっています。端的に言えば、真面目な家庭的な妻が合っています。そういう人体図です。

そして、雅子様の主星を見ると「牽牛星」です。

宿命(2) 雅子様		
配偶者	主星	
司禄星 →	牽牛星	夫に助けられて当たり前と思う女性 夫に助けられたい

雅子妃様の主星「牽牛星」が、皇太子様の第一命星に座ります。

結婚したことで——皇太子様の妻の場所に、雅子様の主星〔牽牛星〕が座ります。

これはピッタリ一致しています。

皇太子様と結婚すれば、どんな宿命の人でも、皇太子様の妻の場所に運勢上で座らせられることになります。

〔これは皇太子様だけの話ではなくて、どなたでもおなじです。このことは前回も出てきました。〕

皇太子様の第一命星に雅子様が座ります。

彼女の主星はもともと〔牽牛星〕のですから、雅子様にとっては、この牽牛星の場所に座るのに適合していますから、座っても違和感がないのです。

それゆえに、ここの相性は {○} です。

参考・適合〔うまくあてはまること〕

雅子様ご自身が、皇太子様の第一命星に座ることは、違和感なくて心地が良いのですが、これは逆も見ないといけないわけです。

つまり、皇太子様にとってはどうなのかです。

雅子様の第一命星・夫の場所は〔司禄星〕です。

皇太子様の主星が〔司禄星〕です。

司禄星の男性が、雅子様の司禄星の場所に座るので
から、ここのところはピッタリ一致しています。

雅子様の配偶者の場所にある星と、皇太子様の主星が
おなじで一致していますから {○} です。

{◎} にしても良いほどです。

この場所だけでも……これほどピッタリと一致してい
るのは珍しいのです。

皇太子様は人体図の妻の場所に〔牽牛星〕があって、
雅子様の主星が〔牽牛星〕で、その女性が皇太子様の
第一命星〔牽牛星〕に座るのでピッタリです。

それに加えて——雅子様の夫の場所には〔司禄星〕が
あって、皇太子様の主星は〔司禄星〕です。

主星〔司禄星〕の人物が、妻の人体図の〔司禄星〕の
場所に座ります。

お互いにピッタリ {○} の姿です。

☞ 秋篠宮様ご夫妻はどうでしょう。

宿命（3）秋篠宮様

土	土	
司禄星	禄存星	

本来の人体図

宿命（4）紀子様

水	水	
龍高星	龍高星	

本来の人体図

こちらのご夫妻も、おなじ箇所を遣りましょ^やう。

秋篠宮様の妻の場所・第一命星〕は〔司禄星〕です。

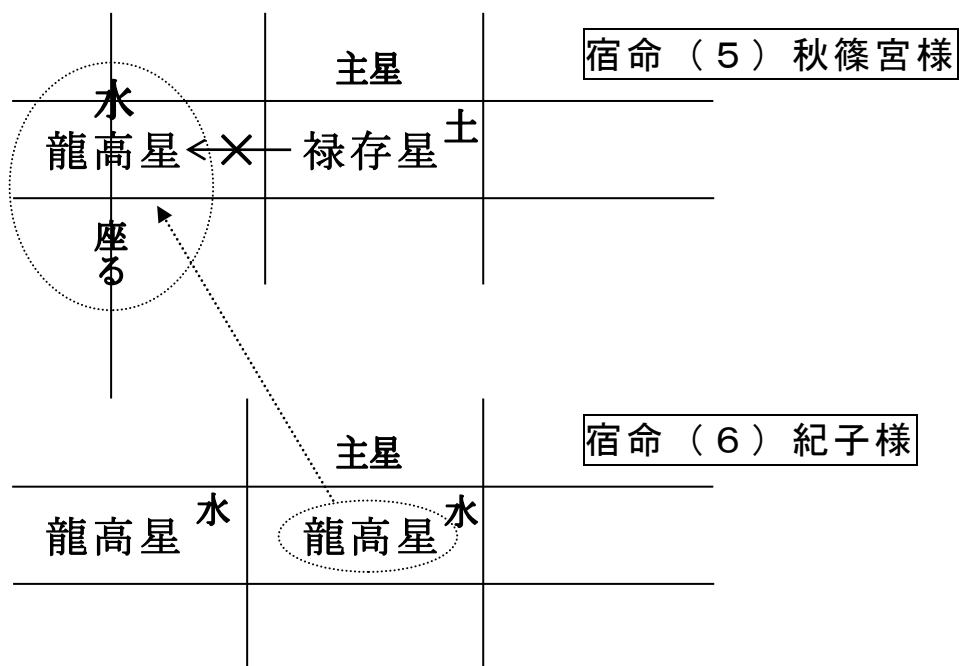
皆さまは、〔司禄星〕といたら、〔五行で土性の星〕ということが、すぐにわかりますか、このことは是非とも覚えて頂きたいのです。

秋篠宮様の妻の場所に〔司禄星〕という五行・土性の星があります。

そして、妻の紀子様の主星は〔龍高星〕です。

〔龍高星〕は、五行・水性の星です。

そうしますと、妻の紀子様の主星は〔龍高星〕です。
主星（水の人）が、秋篠宮様の妻の場所に座ると——
（土→×水）で相剋になります。

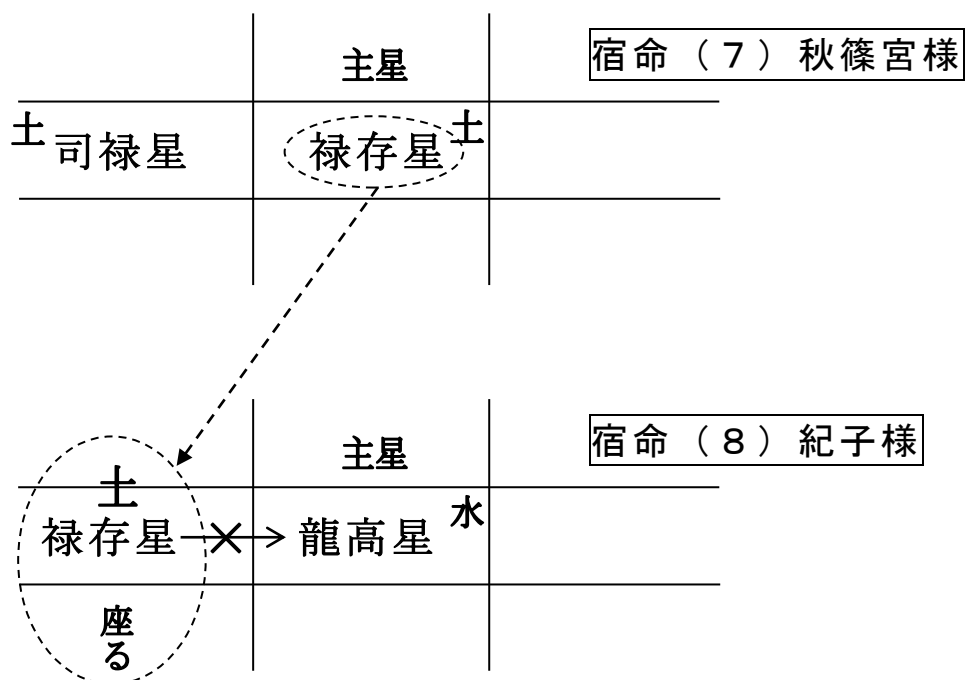


本来の秋篠宮様の人体図は **宿命(3) 秋篠宮様** ですが、
宿命(5) 秋篠宮様 を観ると、秋篠宮様の主星（土性）が、
第一命星に座った紀子様（水性）を相剋しています。
この場所での『相剋』という意味合いというのは……
〔土が水を堰き止めてせき止めてしまう。汚してしまう〕
そのように解釈しますので、お互いの質が全然一致し
ません。この部分は {X} になります。

ただし、このお二人の場合も逆も見ないといけません。 ➡

☞ このお二人の場合も、逆を見ないとはいけません。

どの程度の相性^{あいしょう}なのかを観るわけです。



本来の紀子様の人体図は **宿命(4)(6) 紀子様** です。

それらの人体図を見ますと、紀子様の夫になる人物が座る場所には〔龍高星〕が載っています。

秋篠宮様の主星が（水性）なら1番よいのですが、秋篠宮様の主星は（土性）です。

主星〔禄存星〕の秋篠宮様が、紀子様の配偶者の場所にある〔龍高星〕のところに座ることになりますから

宿命(8) 紀子様 の人体図で見ると（土→×水）で相剋になってしまいます。お互いの質が一致していませんね。

紀子様の主星〔龍高星〕が、秋篠宮様の妻の場所（土性）に座りますから『相剋』です。

秋篠宮様の主星〔禄存星〕が、紀子様の夫の場所（水性）に座りますから『相剋』です。

そうしますと、配偶者の星と相手の主星は、どちらから観ても一致しません。{×} です。

このように……秋篠宮様の主星が、紀子様の夫の場所に座ってどうなのか……紀子様の主星が、秋篠宮様の妻の場所に座ってどうなのかを観ました。

このようにして、両方から観ないといけません。

秋篠宮ご夫妻の場合は、どちらも合っていませんから {×} になります。

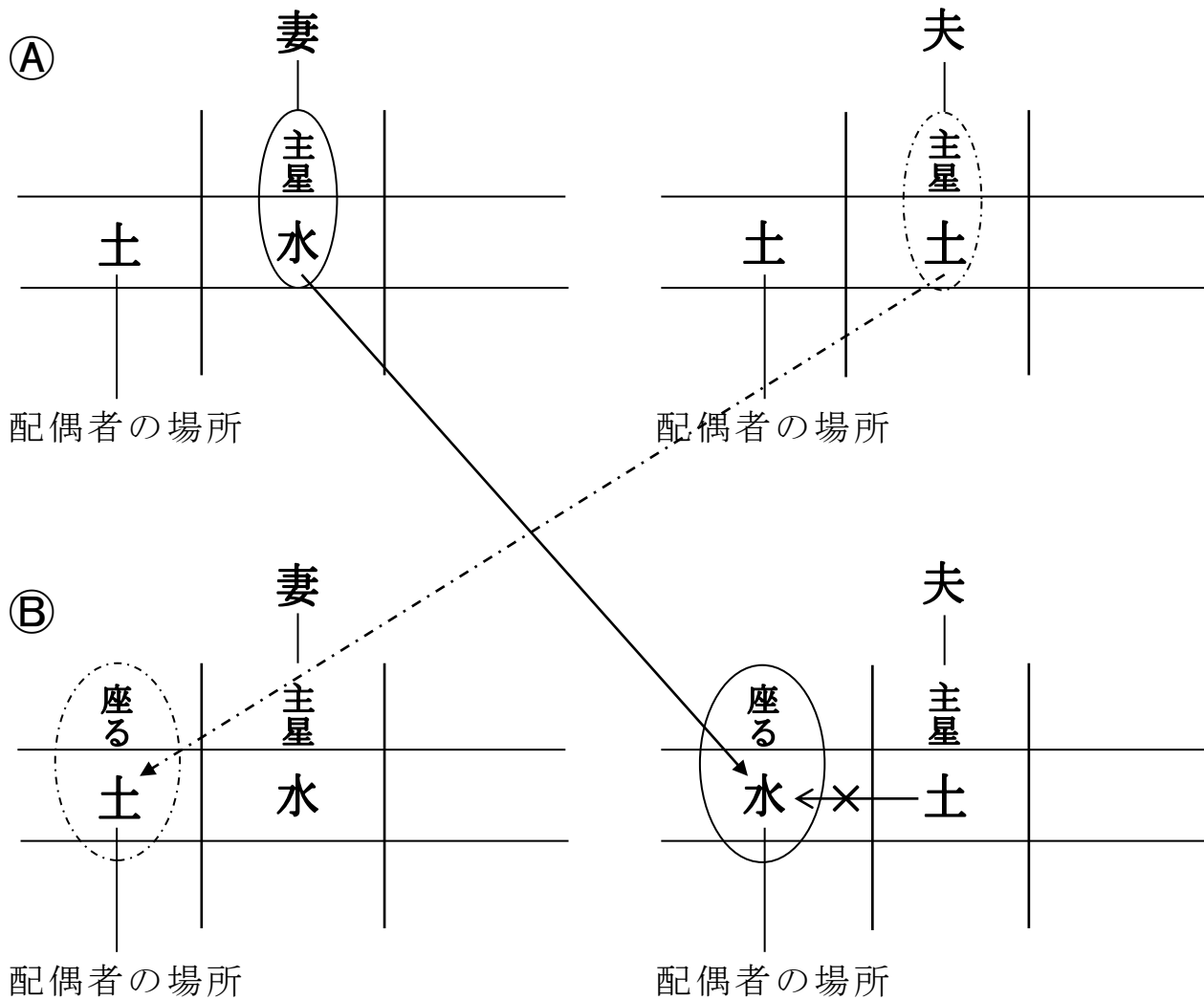
そうしますと、{○} と {×} を付けていくときには、片方は一致しているけど、片方は一致していない、という場合もあるわけです。

もし、そういう場合があれば、相対的に {△} くらいにするわけです。

そこで……別につくってみましょう ➡

〔たとえば〕 宿命(9) ① ②

夫は主星が（土性）で 妻の場所も（土性）です
 妻は主星が（水性）で 夫の場所は（土性）です。



宿命(9) ① 妻の主星は水の人です。

主星（水）の妻が、夫の配偶者の場所（土性）の場所に座るのですから {X} です。

（土→X水）で合っていません。

でも——逆から見ると合っています。

⑤ 主星（土性）の夫が、妻の配偶者の場所（土性）の場所に座るのですから、この部分は合っています。

{○} になります。

宿命(9) ④ ⑤ のように、片方は一致していないけど、片方は一致しています。

こういう組み合わせもあるわけです。

④ ⑤ のような場合は、トータルで {△} にしておいてください。

重ねて申しあげますが——秋篠宮ご夫妻の場合は、どちらも合っていないから {×} になります。

☞ 皇太子様と雅子様の話にもどります。

皇太子様の人体図には（土→金）と〔自分が妻を助きたい〕と書いてあります。

妻を助けたり、面倒を看たりしてあげたいわけです。

夫が妻を『相生』しています。

雅子様は、逆に（土→金）と〔夫から助けてもらいたい〕と書いてあります。

配偶者（夫）から面倒を看てもらいたいわけです。

皇太子様は（土→金）と雅子様の主星を生じています。

04 ページに ①②③④⑤ と5つの^{ばたーん}型を並べましたが、その型に照らし合わせると、皇太子ご夫妻が一番相性の良い組み合わせになります。

宿命（1）皇太子様 **宿命（2）雅子様** を観てわかるように皇太子様は、主星〔司禄星〕ですから、（土→金）と〔牽牛星〕の妻を助きたいのです。

雅子様は、主星〔牽牛星〕ですから、（土→金）と〔司禄星〕の夫から助けてもらいたいのです。

このように書いてあるわけですから、この部分は二人の意見がピッタリ一致します。

皇太子ご夫妻の夫婦関係は『相生』が良いと書いてあります。

これは一致していますので {○} です。

主星と配偶者の星の「生・剋・比」も {○}

この関係を、主星の星と配偶者の星の『^{しょう}生・^{こく}剋・^ひ比』といいますが、これも {○} になります。

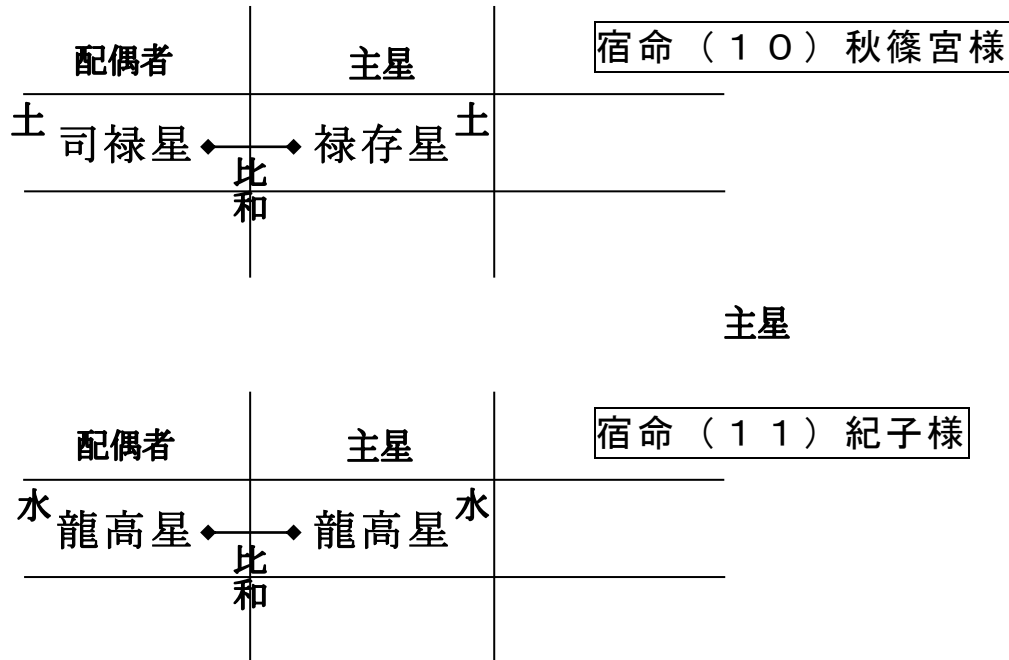
本人の主星と配偶者の場所の星の『生・剋・比』は、主星と配偶者の星が『相生』なのか――。

『相剋』になっているのか――。

『比和』なのか――。

お互いのあいだで、それが一致しているのかどうかなのです。

☞ 再度……秋篠宮ご夫妻を観ます。



宿命（10）秋篠宮様 は、自分が〔禄存星=土性〕です。
 配偶者の場所に〔司禄星=土性〕が載っています。
 自分が土性で、妻も土性ですから、秋篠宮様が望んでいる夫婦の関係は『比和』が良いと書いてあります。

宿命（11）紀子様 の主星は〔龍高星〕で、夫の場所の星も〔龍高星〕なので『比和』です。
 ここは、お二人とも一致しています。

秋篠宮ご夫妻は、友達のような関係を求めています。

自分が配偶者と『比和』の人物は、相手の人も主星と配偶者の場所が『比和』になっていると、相性が良いわけですね。^{あいしょう}

主星と配偶者の星の『生・剋・比』ここは{○}です。

秋篠宮ご夫妻は主星と配偶者の星の『生・剋・比』は{○}

👉【初年】41回目【身強・身中・身弱】18には、練習問題がありました。

占うときには「身強・身中・身弱」は大切です。

ここは見逃してはいけないわけです。

👉 そこで「^{みきょう}身強・^{みちゅう}身中・^{みじやく}身弱」を観ていきます ➡

☞ 「^{みきょう}身強・^{みちゅう}身中・^{みじやく}身弱」を見ていきます。

皇太子様の「身強・身中・身弱」はどうでしょう。

皇太子様の『十二大従星』は、『天貴星』『天報星』『天極星』です。

『天将星』『天禄星』『天南星』は身強の星です。

身強の星がどれか1つあれば、人体図は「身強」です。

人体図に身強の星がなければ「身中」か「身弱」です。

皇太子様は『天貴は中星』『天報は弱星』『天極は弱星』なので、総合すると「身弱」ですね。

強星はなくて、^{ちゅうせい}中星1つ、^{じやくせい}弱星2つで、弱星のほうが多いので、皇太子様は「身弱」です。

雅子様はどうでしょう。

雅子様は『天恍星』『天報星』『天庫星』です。

『天恍は中星』『天報は弱星』そして『天庫は中星』なのですが、中星のなかでは弱いほうの中星ですよ。

トータルすると、天庫星があるので「身弱」です。

雅子様『十二大従星』⇒『天恍星』と『天庫星』は
中星ちゅうせいなので、数のうえでは、中星のほうが多い人体図
なのですが、中星が2個ある場合には、そのなかに
『天印星』あるいは『天庫星』が入っています。

『天印星』と『天庫星』は、中星のなかでは、弱星に
近い星なので、この組み合わせの場合は「身弱」にな
るわけです。雅子様は身弱です。

皇太子ご夫妻は、皇太子様も「身弱」、雅子様も「身弱」
ですから、身弱と身弱です。

お二人とも身弱なので「身強・身中・身弱」の相性は
{○}です。

身弱と身弱 {○}

- ❖ 身弱は身弱と相性がよいわけです。
- ❖ 身強は身強と相性がよいわけです。

秋篠宮様の「身強・身中・身弱」はどうでしょう。

天禄星があるから身強です。

【天将星】 【天禄星】 【天南星】 3 つのうちで、1 個あれば身強です。

秋篠宮様は「身強」です。

紀子様はどうでしょう？

天馳星は弱星、天胡星が2つありますが弱星です。

これは身弱ですけど「^{さいみじゃく}最身弱」になります。

弱・弱・弱と全部が弱星です。

お二人は「身強」と「身弱」の姿です。

身強と身弱 {×}

このお二人は身強と身弱の組み合わせになっていますので、この部分は {×} です。

☞ ^{あいしょう}相性を観るときに、もう一つ大事な要点がありました。

「純と濁」です。

皇太子様の「純と濁」はどうでしょう。

皇太子様は、第四命星にある〔石門星〕のみが、^{だくせい}濁星

〈濁の星〉で、ほかはすべて^{じゅんせい}純星〈純の星〉です。

人体図は^{じゅん}〈純〉です。

雅子様はどうでしょう。

第二命星の〔龍高星〕だけが濁星です。

ほかの4つは純星なので、人体図は〈純〉です。

つまり、お二人とも〈純〉です。

〈純〉と〈純〉なので、当然ここも{○}です。

純と純 {○}

🔍【初年】35回目【人体図純濁法】04 **純濁法** 基本的な質

ご面倒でも確かめるとよいでしょう。

秋篠宮様の「純と濁」はどうでしょう。

第三命星〔龍高星〕だけが^{だくせい}濁星で、ほかの4星は^{じゅんせい}純星の人体図です。

秋篠宮様も純濁法では〈純〉です。

紀子様のほうは、〔龍高星〕〔龍高星〕〔車騎星〕これら3つは濁の星ですから、濁星のほうが多いわけです。

紀子様は〈濁〉です。

秋篠宮様は純なのに、紀子様は濁なので、純と濁だから、純濁法の相性は×です。

純と濁 {×}

^{あいしょう}相性の観方は、このようにさまざまな部分を取り出して、各部を調べまして、トータルしてどの程度の相性なにかと考えるわけです。

☞ 上級生になりますと、「^{どういほう}同異法」という技法を学びます。

その技法では、^{あいしょう}相性の比率を詳しく観ることができます。

皇太子ご夫妻は、全部 {○} ですから、お二人の相性はとても良いです。

秋篠宮ご夫妻のほうは {○} が1個しかありません。あと3つは {×} ×です。相性は悪いです。

☞ 「相性が悪いと、結婚にはならない」とは決まっていますよ。男女間には好き嫌いの感情が介在します。相性悪くても、好きになるかも知れないわけです。

秋篠宮ご夫妻の相性が良い部分としては……。

主星と配偶者の星の『生・剋・比』だけが一一致しています。ここの^{あいしょう}相性だけは合っています。

これは先ほども説明しましたように……。

秋篠宮様は「自分と妻は比和がいい」、そして紀子様も「私と夫は比和がいいわ」と、お互いともに『比和』になっている者同士なので、『比和』の部分では一致しています。

ここだけは {○} ということになります。

秋篠宮ご夫妻のように、一箇所だけしか、相性が一致していないご夫婦の場合には、特にこの部分の相性が重要になるのです。

ここが“扇のかなめ”であり、お二人を^{むす}結びつける^{きずな}絆といえる箇所になります。

このようなご夫婦の生活がスムーズにうまくいくためには、『比和』のところで遣りましたように、お二人にとっての共通点、または共通の目的が必要になります。

二人にとって共通点、または共通の目的が必要

それが夫婦として円滑にいくための“扇のかなめ”になります。

二人にとって共通点、共通の目的意識が必要です。

『比和』の関係は、自分と妻はおなじ（同等）です。このように言っていますが、競争相手でもあるのです。『比和』の組み合わせで、結婚したご夫婦の場合は、「私たち同級生なんです」とか「会社の同僚でした」とか、「一時期おなじ環境で過ごしていたときに、付き合いを始めました」とお答えになる方が実際多いのです。

秋篠宮ご夫妻の場合は、学習院でおなじサークル活動をしていたわけです。

のりのみや

紀宮様とご結婚した黒田さんも、秋篠宮様と紀子様とおなじ「自然文化研究会」に入っていました。

そのように、お二人にとって共通点があるわけです。

必ずとは言い切れませんが、そのような出会いの場合は、『比和』の関係は結ばれやすくなります。

紀宮様と結婚した黒田さんは、「自然文化研究会」での共通の友達でした。

紀宮様と黒田さんにとって、秋篠宮様ご夫妻は、共通の友達であり、義理の兄弟関係でもあるわけです。

紀宮様と黒田さんのご成婚に関して、秋篠宮様ご夫妻が縁談をまとめた] という共通の目的意識があったわけですから、『比和』のご夫妻にとっても、プラスになったといえます。

そして――結婚した^{あと}後も、共通の目的が必要です。

共通の目的というのは〔共通の友達〕とか、〔共通の敵〕でも結構です。

⇒ 皇太子ご夫妻は、一時期・雅子様が病気でした。
当時の報道では、心身の不調「適応障害」という病名
ですが、環境に適応するのが難しく、それでストレ
スが溜まったというように報道されていました。

コロナとかインフルエンザのようにウイルスに罹^り患^{かん}し
て病気になったとかではないので、精神的な病気です。
一般的には、躁^{そう}鬱^{うつ}病^{びょう}みたいな状態だったそうです。

そうしますと、雅様の人体図を観て、病気の原因は
何だと想いますか……？

人体図を^み観ると原因がわかります。

今まで、皆様が学んだ範囲でわかります。

「適応障害」何に適応できなかったでしょう。
雅様様の病気の原因は子供と考えています。
子供の星といえば〔鳳閣星〕〔調舒星〕です。
雅様様の人体図の特徴の一つは、〔鳳閣星〕〔調舒星〕
がないのです。

* 雅子様 1963(s38)-12-9

宿命(12) 雅子様

	牽牛星 ^金	天恍星
司祿星 ^土	牽牛星 ^金	玉堂星 ^水
天庫星	龍高星 ^水	天報星

〔鳳閣星〕〔調舒星〕子供の星がない

〔鳳閣・調舒〕は子供の星ですから、三分法を学んだときに、人体図に鳳閣星・調舒星のどちらかがあるとか、子供の星がいくつもあるとすれば子供縁が深いですよ。子供との関わり合いが多くなりますよ。そのような説明がありました。

人体図の子供の観方は陰占とは少し異なります。陰占で学びます。

そうしますと、子供の星が一つもない人体図は子供縁が薄いとか、子供との関わり合いが少ないとか、そのようになるはずです。

つまり、人体図に〔鳳閣星〕あるいは〔調舒星〕がない人は、子供縁が薄いので……子供との関わり合いが少ないほうが宿命に合っているのです。

それが宿命どおりです。という意味になります。

☞ 人体図に〔鳳閣星〕〔調舒星〕が一つもない人は、子供を生んではいけません。そういうことではないですよ。

子供を生んでもよいし、育ててもよいのです。

ただし、子供のことを^きに^か掛けないことです。

(子供に気持ちを向けない。心をとらわれないことです)

子供のことを気にしないこと

このように考えるとよろしいですね。

自分の人体図に子供の星ないので、子供に深く関わるとか、子供のことを気に掛けてはいけないわけです。言い換えれば、子供を自分の思いどおりに育てようと深く心にかけないことです。

子供が生まれても、自分の思い入れをしないこと

☞ このことは、男性でもまったくおなじです。

当時の報道によると……皇太子妃なので、結婚以来、毎月のように、宮内庁から問い合わせがあり、ご年齢はあまりお若くはありませんので、早く跡継ぎおつくりになっていただかなくてはと……宮内庁から毎月の照会があったそうです。

そうしますと、人体図に子供の星がない人が、天皇家の跡継ぎを生まないといけないという責任が生じます。

皇太子妃で跡継ぎを生まないといけない



結婚して何年も子供ができない



やっと妊娠したが、流産してしまった



なんとか妊娠しましたが、結果的には女の子でした

これらの事柄をまとめますと、皇太子妃として跡継ぎを生まなければならない立場です。

最初からその役目が与えられていたわけです。

しかし、何年も子供ができませんでした。

やっと妊娠しましたがけど流産してしまいました。

その後に、子供を授かりましたけど、女の子だったわけです。

女の子が生まれたら「男の子ができるまで外国に行くことは控えてください」と宮内庁にいわれそうです。

男の子が生まれるまで、外国に行っては行けない

これが事実であったとしたら……。

人体図に〔鳳閣星〕〔調舒星〕のない男女にとっては、まったく宿命に合わない環境だといえます。

〔鳳閣星・調舒星〕のない人は、子供のことにに関して気をつかってはいけない、気にしてはいけないのです。このような人体図の人には、「お子さんは、いつでもよいのですよ」といってあげたほうが、子供ができるのです。

「女の子でも男の子でも天の恵みです。天の采配にお任せしましょう」といってあげたほうが授かるのです。それが彼女の宿命に即した環境になります。

算命的に言えば、つぎのようになります。 ➡

〔鳳閣星・調舒星〕が1つもないのに、その環境下において〔子供のことばかりを気にかけて〕今月はできるだろうか、来月どうだろうか、出産の重圧を受けて、子供のことだけに神経を集中する状況に置かれてしまうと、ほかの人体図の星まで、生きてこなくなるのです。本来、子供の星がないのに、ないものねだりで、鬱病うつびょうにもなるといえます。

人体図に星がないわけですから、子供のことは一切気にせず、本来もっている星を輝かしたほうが宿命は生きてくるのです。

そのほうが、自然と子供もできやすくなるのです。

そして、愛子様〔2001-12-1〕が誕生して、その後、2008-4-10 学習院初等科へ入学されました。

学習院には「親は同行しない」という原則に反して、愛子様いじめが心配ということで、付き添いべったりは、宿命にも反した動きです。人体図に星がないわけですから、子供のことは一切気にしないことが、本来の子育ての姿なのです。母としては難しいですよ。

☞ つぎの考え方としては……。

雅子様は〔鳳閣・調舒〕の子供の星がないです。

しかし、子供の場合は、どなたの人体図にも必ずあります。そこで、子供の星がない人は、人体図の子供の場所・第二命星を見ます。

雅子妃様の場合は、子供の場所に〔龍高星〕が載っています。

そうしますと—— 宿命（13）雅子様

	牽牛星	天恍星
司禄星	牽牛星	玉堂星
天庫星	龍高星	天報星

↑
雅子様は、子供の場所に〔龍高星〕があります。



外国の星

〔鳳閣星〕〔調舒星〕のない人で、子供が欲しかったら子供の場所にある星を^い生かすことです。

人体図に子供の星がないのなら、子供のことで悩むよりも、〔龍高星〕の意味合いを活かすことです。そうすることで、子供運が上がっていくのです。龍高星には「外国の星」という意味があります。

そうしますと、宮内庁は「男の子が出来るまで外国に行ってははいけません」ということでした。

算命的には、この発言は“真^ま逆^{ぎやく}”なのです。

雅子様の宿命に^{そく}即した発言は「お子様はできなくてもよろしいですから、外交で活躍してください……」といわれると、宿命は“生き生き”して輝くのです。そうならば、子供も授かるようになるのです、宮内庁の発言が真実だとすれば、彼女の人体図を壊すような話です。

結婚して何年も出来なくて、やっと授かれば女の子でした。それに追い討ちをかけるように「男の子できるまでは、外国行っちゃいけませんよ」と、いわれたとすれば、きっと……どの女性でも鬱^{うつ}病^{びょう}になってしまうでしょう。

☞ 彼女の父親は外交官で各国（ロシア、スイス、アメリカ）に居住し、雅子様も一緒に生活していたわけです。

〔彼女は幼少期から龍高星を生かした生活をしていました〕
彼女も外交官を目指して外務省に入省したわけですから、雅子様自身も外交はほかのどの皇族よりも、自分のほうが専門だという自負もあるはずです。

しかも、彼女の人体図の帰星は〔龍高星〕外国の星です。〔帰星には、人生の目的となる星という意味があります〕

そうしますと、この人体図を観て、子供・子供と宮内庁からいわれてきたことが「適応障害」の原因だと考えたときに、どうしたら病気が快方に向かうと想いますか……？

日本の皇太子妃として、皇室外交で活躍するようになれば回復するわけです。

雅子様は「皇室外交をささえる」という^{きがい}気概もあり、ご結婚の意思を固められてののかも知れません。

ご成婚にいたるまでには（6年半）、あしかけ7年という歳月をついやしています。

プライドの星〔牽牛星〕は、雅子様の主星です。
これらの星を生かすことができれば、快方に向かうわけです。実際にそうなればプライドも満足します。

彼女の人体図は皇室外交に極めて向いています。
おそらく皇室のなかにこのような人体図をもっている人物はいないでしょう。もったいないですよね。

〔40歳〕の頃はまだ期待できる年齢でしたから、跡継ぎの子供のことで大変だったでしょう。

〔50歳〕を過ぎれば、まわりもいわないでしょう。
気が楽になったと考えられます。

一般の家庭ではなく、日本の皇室を受け継ぐべき人物を生むのが役目であります。

その重圧は^{すさ}凄まじかったと想像できます。
ノイローゼにもなりますよ。

当時の平成天皇陛下も美智子皇后様も、まだできないのですかと……相当に気にされていたと想えます。

皇太子様の人体図は〔鳳閣星〕があります。

それゆえに、子供のことを気にしてもよいのです。

むしろ――愛子様との関わり合いを深くするほうが、
皇太子様の人体図に合っています。

皇太子様は、子供のことを気にしても大丈夫です。

でも、雅子様は気にし過ぎると駄目なのです。

ご夫婦でも、そこは違うわけです。

このことは、子育てもおなじですよ。

☞ 雅子様のご性格の特徴はどうでしょう。

主星は〔牽牛星〕です。真面目です。

主星が牽牛星で、親の場所〔第四命星〕にも牽牛星があります。二つあるのは牽牛星だけです。

『十二大従星』を含めても、おなじ星が2つあるのは牽牛星だけです。

宿命（14）雅子様

	牽牛星	天恍星
司禄星	牽牛星	玉堂星
天庫星	龍高星	天報星

牽牛星は真面目な星で、名誉の星、仕事の星です。

とてもプライドが高い星ですから、一生懸命に皇太子妃としての責務を果たそうとしてきたと考えられます。

雅子様にとっての牽牛星はプライドの星、仕事の星です。その星が〔龍高星〕知恵の星を生じています。

ハーバード在学中に論文で「優等賞」を受賞されています。

外務省に入省した雅子様は才媛で、将来を期待される現役の外交官です。

雅子様は「外交官は一生の仕事」と位置づけておられました。

雅子様にとって、最大のプライドは外交官だったことではありませんか……。

外交官だったことは、雅子妃のプライド

プライドの星・仕事の星〔牽牛星〕2星が、〔龍高星〕という知恵の星・外国の星を生じています。

そのことからしても、才媛さいえんの外交官として期待され、その道を歩まれてきた自分のキャリアを否定されたら、最もプライドが傷つくはずです。

プライドがとても高いので、プライドを傷つけられるのは、精神的痛手が大きいのです。

「外交官は一生の仕事です」「私は外交官です」というプライドがあるはずです。

彼女の人体図は、プライドを否定されると最も大きなダメージを受けます。

参考・才媛〔学問・才能のすぐれた女性。才女〕

しかも（土→金→水）と龍高星・玉堂星が帰星です。

ハーバードで「^{ぶれいんまさこ}頭脳雅子」と呼ばれ、プライドと頭脳で勝ち得た人物が、自分のキャリアまで否定されたのであれば、そうとうに精神は参ってしまいます。

その彼女を皇太子様が（土→金）とささえて、助けてくれたから、護ってくれたから、何とかやってこられたと考えられます。

それはもう何年も過去に「雅子のキャリアや、そのことに^{もと}基づいた雅子の人格を否定する動きがあった」と、皇太子様が発言されています。皇太子様はご自分の感情を抑えながらのご様子でした。皇太子様としては珍しいと思えます。

⇒ 普通に「性格判断」をしますときに、とにかく主星は特徴なのです。

さらに、雅子様の〔牽牛星〕のように、^{どうせい}同星が複数あれば、それも特徴です。

特に――特徴がある部分に^{しょうてん}焦点を当てて、どのような性格の特徴をもっているのかを……^{とら}捉えていくことで、人体図を観やすくなります。

☞ 秋篠宮紀子様のご性格の特徴はどうでしょう。

そう〔龍高星〕です。改革の星・外国の星です。

おなじ星が2つあるのは〔龍高星〕だけです。

宿命（15）紀子様

	司禄星	天馳星
龍高星	龍高星	車騎星
天胡星	禄存星	天胡星

〔龍高星〕は^{かいかく}改革の星です。

物事を^{あらた}改め変える気持ち強い

『十二大従星』は『天胡星』が2つあります。

十二大従星は、「身強」なのか、「身弱」なのかというのも大事ですが、人体図に3つ載る星の2つが同星ですから、そこも最大の特徴になります。

〔天胡星〕は^{じこけんじよく}自己顕示欲の強い星です。

自己顕示欲

紀子様は〔龍高星〕が主星で、第三命星も〔龍高星〕ですから、改革心が大変強いのです。

そして、十二大従星は『天胡星』^{てんゆめせい}が2つありますから自己顕示欲も強いです。

龍高星は「外国の星」「知恵の星」の意味があります。なぜ「外国の星」という意味があるのかとといえば、龍高星は改革の気持ちが強い星です。

物事を“改革する気持ちが強い”というのは、自分の生まれ育った環境に、いつまでも居座るだけでは、改革にならないわけです。

自分が生まれ育った場所ではなくて、まったく知らない地、知らない場所、新しい世界……つまり自分の知らない世界、
〔たとえば〕外国へ行ったり、外国の仕事をしたりすれば、自分の生まれ育った環境から逸脱^{いつだつ}して、物事が改まり変わりますから、改革したことになるわけです。

〔龍高星〕は「外国の星」「離別放浪の星」とも呼ばれます。

もちろん、自分の生まれ育った環境を改革するのは、外国に行かなくても、改革できれば良いのです。

紀子様は、どのような改革をしたのでしょうか……、一般人が「皇室」へ嫁ぎました。

こんなに大きな人生の改革はないですよね。

過去には「美智子様」もそうです。

美智子様は生まれながらに皇室へ嫁ぐ宿命なのです。

紀子様とは大きく異なります。

紀子様は皇室に嫁いでしまえば、自分の生まれ育った環境を、大きく改革したことになります。

なおかつ、相手が皇族の人物ですから、自己顕示欲も満足できます。

紀様様の性格の二大特徴は「改革の気持ちが強くて」「自己顕示欲が強い」ところです。

それなら、紀様様にとって秋篠宮様はピッタリです。

紀様様の欲求を満たすには、最高の男性です。

結婚なさるとき「好きになった方が、たまたま皇族の方だった」と、おっしゃっていました。秋篠宮様が皇族だから好きになったのです。紀様様は皇族に惹かれたといえます。

紀様様の人体図にそう書いてあるわけです。

先ほど、秋篠宮ご夫妻の相性^{あいしょう}を観ましたが、どのようでした……相性は悪かったですよね。

改革と自己顕示欲がとても強いのです。

さて、これも古いことですが、秋篠宮様が皇太子様のことを批判した記者会見がありました。

紀子様もお隣に座していて、すごく嬉しそうでした。自己顕示欲が満足している姿です。

〔たとえば〕相手の男性がサラリーマンだとしたら、好きになったのでしょうか――？

秋篠宮様は皇族なので、おそらく紀子様のほうから、熱をあげて近づいたと想われます。

相手が皇族だということを、目当てに結婚したとしてもそれは悪いことではありません。人体図にはそのように書いてあります。ということだけなのです。

〔良いとか〕〔悪いとか〕という意味は、何に対してもないので。その決まりは算命学にはないので。

ただ、相性が悪い相手を好きになって結婚するというのは、そこに何か特別な理由が存在するのではと考えます。一般には、相手がお金持ちとか、相手がエリートコースに乗っている人物かも知れないですよ。

♡ 皇太子様ご夫妻の相性^{あいしょう}はとても良いです。

お互いに気に入ったのです。

雅子様が皇太子様を好きになったということではなくて、相手の人間性が雅子様の心になかったのです。

皇太子様も雅子様が外交官だから好きになったわけではなくて、雅子様のお人柄に惹かれたのです。

参考・人間性〔人間としての生まれつきの性質。人間らしさ〕

参考・人柄〔感じられる性格。品性。人品〕

皇太子ご夫妻は、ご結婚するまでに何年もかかっています。お二人の交際が報道されてから、あしかけ7年近く経過してからのご成婚です。

皇室には、皇太子様と雅子様のご結婚に反対派もいたわけです。

ご成婚にいたる年月からしても、お二人のご結婚には、皇族と普通の平民ということだけではない障害が存在していたと想われます。

〔たとえば〕これだけ相性が良い場合は、二人ともが外交官で、二人とも外務省で知り合ったとかであれば、出会いから長い期間をおかないで結婚するでしょう。

とても相性が良いのに、結婚まで期間がかかったということは、さまざまな事柄がお二人の障害になったと想像できます。

相手が皇太子だということに、雅子様は惹かれないのです。むしろ、結婚することを悩んだのでしょう。

皇族と結婚したら自分の人生は一変するし、責任も重くなります。相手が皇族だということに、ためらいがあったと想います。

実際に結婚したら、求められるのは世継ぎのことばかりで、外交の表舞台に立つことはできませんでした。

〔長い長い辛抱でしたけど……やっと令和天皇の皇后として、
表舞台に立てる環境になりました〕

紀子様は、相手が皇族なので惹かれたのです。

宿命は改革者ですから、相手が皇族だからといっても、それは障害にもならないと、ご本人は考えるわけです。

【初年】50回目【人体図の観方②】 終わります

つぎの授業 ⇒ 【初年】51回目【運勢論】です。